



気になるあいつ
わかぎゑふ

双葉社

あかんやん！

世の中にはしていい格好と、してはいけない格好があるような気がする。思えば日本人はなかなかカジユアルになつてきた。それはみんながお金を持っているという証拠である。

国によつては、ちゃんとした格好をしてないと入れない店だつてある。特に旧イギリス領だつた国なんて、ディスコやクラブに入るのに男性はネクタイ着用で、半パン禁止というのは通例だ。教会にノースリーブ、半パンで行つてはいけないという国もある。現にバチカンのサンピエト

口寺院なんて、イラストの看板があちこちに貼ってあって、半パン袖なしの絵に大きくバツ印が入ってる。

それなのにその看板の前で、堂々とノースリーブのタンクトップを着ている外国人もいたりする。「なんや、この人ら？ 看板見えてないんかな？」と思うが、こっちも観光客だし、英語で注意できるわけでもないから放っておく。

してはいけない格好。今の日本人には難しい定義だ。かつての日本人はデパートに行くのだったってお洒落をして行った。うちの母は三越に行くときは、はりきって着物を着て行ったとか。私も新年の落語会なんぞには着物を着ていったものだ。

それがいつも間にか薄れた。バブルの頃からだっただろうか、大人の格好をしなくても、どんな店に入ってもよくなつて行った。それはそれでいいことなのだが：どこからか、大人が若い子たちの格好に寛容になった。

よく見ていただいたら分かると思うが、今回の写真は先日、お花見に行った時に偶然撮った一枚だ。近くの場所で数人の若い男女が宴会をしていたのだが、ご覧のようにひとりの女の子の後姿が、あまりにも気になる半ケツだったのだ。

こっちの宴会はおっさんとお婆はんの集団。当然突っ込む「なんや、あのケツ！」で始まり「ケツ見せる前に、ウエスト痩せとけよ」なんて、ご本人が聞いたら「ほっといて！」と言いつ返しにくるような話ではある。我々のような役者をやってる女は、普段鍛えてない身体をみると偏頭痛がしてくる。「あかんやろ、その鍛えてない体見せたら」と思ってしまうからだ。

若い子が半ケツしてるくらいで、突っ込むなんて羨ましいだけだろう！と思われたらそれまでかもしれないが、本当にあまりにも彼女のケツは見世物になっていなかった。体の一部を見せるのである。やっぱり

り「どや、見てみる！ 若いやろう」くらしいの勢いで見せて欲しい！
それなのに彼女は座っている姿勢もダラダラとして、弾けるような若
さに欠けていた。油断してる体というのは、「見せてはいけないもの」
ではないんだらうか？

中年になって腰周りが太ってくるのは人間の体の構造上仕方ないが、
筋肉のなさそうな身体で、ぷりぷりぷりを発揮されても、目のやりどこ
ろに困るんだ。しかも、花見なんだから地べたに座る事を知ってて
来たはずだ。股ぐりの浅いパンツをはいたら、当然立つてる時より引つ
張られて丸見えになるということを考えて見せてほしかった。

どんな場合でも、してはいけない格好がある。野球選手のイチローは
試合中にテレビの「中継でチラリと映ることを考えて、常に子供に憧れ
られるような選手でありたいと、立ち姿まで研究してるらしい。

そこまでオタツキーにならなくてもいいが、せめて見てて気持ちのい

い格好をみんなすべきなんではないだろうか。やっぱり中年のひがみに聞こえます？

【著者略歴】

わかぎさるふ

1959年、大阪府生まれ。女優、エッセイスト。1986年より故中島らも氏とともに劇団「リリパット・アーミー」を主宰し、現在同劇団の進化形「リリパット・アーミーⅡ」の座長。1994年より演劇ユニット「ラックシステム」を旗揚げ。演劇制作会社「玉造小劇団」を運営し、女優のみならず、脚本、演出、メイクから衣装まで芝居全般にわたりその才能を発揮し続けるスーパーレディ。主な著書に『すみっこのすみっこ』『女体の神秘』『秘密の花園』『ぬくい女』『イブの抜け穴』『大阪弁の詰め合わせ』など多数。
